

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	大阪市中央区高麗								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	扶桑化学工業株式会社		専務 水ノ						
事業者の主たる業種	有機化学工業製品製造業								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	20年 4月 ~ 23年 3月								
基本方針	エネルギー消費効率の改善、廃棄物の発生抑制・リサイクルの推進、ESCO事業者により実施している省エネ項目を検討・実施することにより、5%削減を目指す。								
推進体制	平成20年2月に京都事業所内に京都技術センター（後に生産技術課）を新設し、設備の企画・効率化を推進すると共に、安全環境対策室が省エネ対策の進捗状況を確認改善を検討していく								
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	20	倉庫照明設備の変更	既存の水銀灯照明を汎用タイプから高効率タイプへ変更する（CO2削減量：12.6 t CO2）						
	20~21	ボイラー条件の変更	ボイラーの設定圧力変更、蒸気ドレンを回収し給水温度を変更することにより省エネルギーを行う（CO2削減量：180 t CO2）						
	22	誘導灯の更新	一般蛍光灯型10W誘導灯を高輝度誘導灯に変更する（CO2削減量：0.3 t CO2）						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） (19)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度（計画） (22)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	報告年度（実績） (21)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (実績)			
		A 事業所等排出区分	34,790.0 t	33,049.0 t	-5.0 %	29,895.6 t	-14.1 %		
		B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%		
		C その他排出区分	t	t	%	t	%		
		排出合計	*1 34,790.0 t	*2 33,049.0 t	-5.0 %	*4 29,895.6 t	-14.1 %		
	実績に対する自己評価	不況により、目標年度に設定していた生産量に比べ生産減となっており、CO2排出総量としては減となった。							
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
		二酸化炭素換算 生産量（t）	0.849 t-CO2/t	0.711 t-CO2/t	-16.3 %	0.925 t-CO2/t	9.0 %		
		二酸化炭素換算			%		%		
		二酸化炭素換算			%		%		
実績に対する自己評価		事業所内の各部門とも稼働率が悪く、原単位の悪化を招いた。							
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）			報告年度（実績）				
		取組量等			（二酸化炭素換算）				
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）	t	（利用量）	m ³	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t	（発電量）	kwh	（削減量）	t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t
	削減量等合計			*3 t		*5 t		t	
	差引排出量 (排出合計-削減等合計)		基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
		*1 34,790.0 t	*2(*3) 33,049.0 t	-5.0 %	*4(*5) 29,895.6 t	-14.1 %			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	1、アイドリングストップ運動 2、ライトダウンキャンペーン参加								
特記事項	*本年度报告より、第二工場が稼働開始（9月より稼働）。実績に加えて報告いたします。 1、事務消耗品については、グリーン購入を推進しています。また、照明・空調機の適正化（時間・部分・温度）に努めています。 2、製造工程で発生する産業廃棄物を焼却し、発生する廃熱を有効利用することにより省エネルギーを図っています。 3、熱触媒酸化装置の導入により、排ガスを効率化しています。 4、ESCO事業の導入等により、ボイラー効率・各種ポンプ稼働の効率化を図っています。								

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち、「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。